

大空に翔る

地区協議会だより



第46回日独スポーツ少年団同時交流受入事業（村山地区協議会）



令和元年後スポーツ少年団認定員講習会
兼スポーツリーダー養成講習会最上コース（最上地区協議会）



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会（置賜地区協議会）



第55回山形県スポーツ少年団大会
兼令和元年度ジュニア・リーダースクール（庄内地区協議会）

昨年五月より本部長を仰せつかりました遠藤啓一です。皆様のご支援とご協力を頂きながら微力ではありますが精進する所存です。よろしくお願いいたします。

さて、「令和」への変遷と時を同じくしてスポーツ少年団指導者制度の改定が四月から施行されます。

スポーツ少年団を取巻く環境が大きく変わる中で、より積極的に関わり社会的な使命を果たす存在になるというスポーツ少年団の姿勢が示されたものです。しかし、その本質はこれまで目標としてきた姿と何ら変わるものではなく、指導者として常に学び続け資質向上に自ら取り組んでいくという姿を示したものに過ぎません。子どもたちのスポーツとの出会いの場を担う大人として、ご理解いただければと思います。

今年は東京オリンピックパラリンピックが開催されます。私は「スポーツ」のとらえ方について考える機会になればと期待しています。スポーツの考え方、とらえ方、これこそが「スポーツ文化」であり、我々スポーツ少年団の理念と深く関係するものではないかと思うからです。世界中のアスリートの活躍を期待しその姿に学びたいと思います。



山形県スポーツ少年団
本部長 遠藤 啓一

「令和」の時代に向けて

【大切なお知らせ】

今後のスポーツ少年団指導者について

令和二年度から、スポーツ少年団登録規程・同規程施行細則、スポーツ少年団指導者に関する諸規程等が改定施行されます。単位スポーツ少年団の登録にも大きく関わる事項ですので、必ずご確認ください。

諸規程等の改定の背景・経緯

このたびの諸規程等の改定の目的は、スポーツ少年団指導者の養成に関するテキスト内容のアップデート、カリキュラムの変更にとどまるものではありません。その目的は「スポーツ少年団の指導者が学び続ける環境を整えること」、「スポーツ少年団指導者が全員有資格者となること」であり、令和二年度からのスポーツ少年団指導者とは、日本スポーツ協会（JSPPO）公認スポーツ指導者資格を持つ方となります。

「スポーツ基本計画」や「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」などの国の施策にスポーツ少年団の名称が明記されており、社会からスポーツ少年団への期待が高まっています。その期待への対応は、スポーツ少年団がより社会的な使命を果たす存在になることであり、日本スポーツ少年

団が平成二十一年に発表した「スポーツ少年団の将来像」で示した方向性と一致しています。

JSPPOではスポーツを「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化」と定義しています。スポーツ少年団の団員は、自発的にスポーツを選んでくれた子どもたちです。その子どもたちに対する指導者としての責任を果たすためには、スポーツ少年団指導者は全員、JSPPO公認スポーツ指導者資格保有者であるべきと考えます。

このたびの諸規程等の改定は、子どもたちのことを第一に考え、子どもたちによりよいスポーツ環境を整えることを目的としています。趣旨をご理解いただき、引き続きスポーツ少年団諸活動へのご協力をお願いいたします。

【指導者について】令和二年度以降の認定育成員・認定員の位置づけ

認定育成員および認定員は、保有しているJSPPO公認スポーツ指導者資格（JSPPO公認スポーツリーダー資格を除く）が有効なかぎり「指導者」としてスポーツ少年団に登録することが可能です。ただし、JSPPO公認ス

ポーツリーダー資格のみ保有している認定員は、移行期間中※にJSPPO公認コーチングアシスタントへの資格移行が必要になります。

*認定育成員はJSPPO公認スポーツ指導者資格（JSPPO公認スポーツリーダー資格を除く）を保有しており、認定員はJSPPO公認スポーツリーダー資格を保有しているため、この諸規程等の改定に伴い、認定育成員・認定員ともに、新たにほかのJSPPO公認スポーツ指導者資格を取得する必要はありません。

*令和五年度までの移行期間の措置

JSPPO公認スポーツリーダー資格のみ保有している認定員は、令和五年度までの移行期間登録までは、JSPPO公認コーチングアシスタントへ資格を移行しなくても、JSPPO公認スポーツリーダーの資格をもって「指導者」としてスポーツ少年団に登録することが可能です。

【登録について】令和二年度以降の単位団におけるスポーツ少年団登録

①登録区分

単位団における主な活動内容ごとに「団員」、「指導者」、「役員」、「スタッフ」の四つの登録区分になります。また、登録区分ごとにスポーツ少年団登録料を設定します。

	スポーツをする		運営に関わる	
	スポーツをする	スポーツ指導をする	役員	スタッフ
JSPPO公認スポーツ指導者資格有	団員	指導者 (20歳未満含む)	役員	スタッフ
JSPPO公認スポーツ指導者資格無				
スポーツ少年団登録料 ※日本スポーツ少年団への納入額	300円	700円	700円	700円

②単位団がスポーツ少年団登録をする際の条件※

「原則として団員十名以上、指導者二名以上で構成すること」に加え、下記二つの条件を「すべて」満たすことが登録の条件となります。

- 二十歳以上の「指導者」、「役員」または「スタッフ」の二名以上の登録が必要
- 二名以上の指導者が「スポーツ少年団の理念」を学んでいること※₂が必要

- ※1：詳細は、左記日本スポーツ協会ホームページからご確認ください。
- ※2：スポーツ少年団の理念を学んだ指導者……令和元年度に認定育成員・認定員として登録している方、またはスタートコーチ（スポーツ少年団）※₃資格保有者
- ※3：令和二年度からスポーツ少年団が新たに養成する指導者資格です。

詳細は、ホームページからご確認ください。
「日本スポーツ協会トップページ」↓
「スポーツ少年団」↓「令和二年度以降のスポーツ少年団について」

令和元年度山形県スポーツ少年団事業

第五十五回山形県スポーツ少年大会
兼ジュニア・リーダーズスクール

山形県スポーツ少年団
活動委員会委員長 上野 義弘

連日猛暑の中、第五十五回山形県スポーツ少年大会(兼)令和元年度ジュニア・リーダーズスクールに多くの皆さんのご参加を頂き、無事終了出来ましたことに心より感謝申し上げます。

八月九日(金)初日、電車の遅延等もありましたが欠席者も無く開講式、生活オリエンテーションを終えました。交流活動Ⅰ「アイスブレイク」を楽しみ、「先輩の体験談」に聞き入り、そして団員一人一人が不安の中、班別ミーティングが行われました。班長、係等の役割分担、班活動目標を決め、和やかに仲間意識を高めながら夕食後の活動に入る事が出来ました。ジュニア・リーダーズスクールは講義Ⅰ・Ⅱを学び、少年大会は班員協力しながら「ナイトハイク」を楽しむ、係会・班会議、指導者打ち合わせと一日目を終了しました。

八月十日
(土)二日目、
あいにくの
雨模様で活
動プログラ
ムが晴天時



から雨天変更になり、団員たちは大変がっかりしていました。しかし、「カヌー体験活動」が「ミニ運動会」、「キャンプファイヤー」が体育館での「キヤンドルサービス」に変更され、指導者・リーダーの皆様には大変ご迷惑をおかけすることになりましたがご理解頂きました。「ミニ運動会」では急遽の変更にも関わらず指導者の素早い対応で班別対抗ゲーム・ドミノを楽しみました。野外炊飯では雨もやみ、予定通り屋外で班員同士が一致団結してカレーライスづくりに没頭し、美味しく頂きました。夜間の「キヤンドルサービス」ではリーダー会を中心に雰囲気づくりを盛り上げてくれ、厳かな中に団員同士の交流を深めることが出来たと思っております。

八月十一日(日)最終日、朝のつどい、館内清掃、朝食後、ジュニア・リーダーズスクールは「話し合い」、少年大会は「焼き杉工作」に分かれ活動しました。感想文を記入し閉講式を迎え、全ての日程を終了することが出来ました。

あつという間の二泊三日、団員の皆さんには少年大会・ジュニア・リーダーズスクールで学んだことをこれからのスポ少活動・生活に生かしていくことをお願い致します。



令和元年度山形県スポーツ少年団
指導者・育成母集団研修会
山形県スポーツ少年団
指導者育成委員会委員長 阿部 好弘

平成から令和に変わって初めての山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会が、十一月九日(土)に東京第一ホテル鶴岡で開催されました。私の記憶の中では、過去最高人数二百三十名ほどの出席です。スポーツ少年団活動に熱心な指導者、コーチ、母集団の方々の研修したい気持ちが伝わってきました。

最初に、長年スポーツ少年団に功績のあった団体と個人に、日本スポーツ少年団顕彰の伝達がありました。受賞されました皆様、本当におめでとうございませう。今後益々のご活躍を期待します。

次に、日本体育大学スポーツ文化学部准教授である南部さおり先生による講演がありました。先生は、法医学の立場で実例を出しながら命を守る大切さを話されました。聞きなれない「急性硬膜下血腫」では大変ショックを受けました。転ぶ等してできたたんこぶを、私たちはこれまでただの内出血と思っていました。しかしこれは大きな間違いで、非常に危険な状態になっていくこともあるので、良く観察してほしいとの



ことでした。以後我々も気を付けていきたいと思えます。また体罰は、振るう人振るわれる人の二者関係にとどまらず、周囲に影響を与えるので、断ち切る勇気が必要だと声を大にして話されました。最後にスポーツ指導で大切にしてほしいことは競技力の育成だけでなく、子どもたちを生かす指導であるということをお話されました。我々も、子どもたちの将来を託されて指導していることを忘れずに今後指導していきたいと思いました。

本来であれば講演の後に、研究協議で実践事例発表をしてもらっていたのですが、今回は令和二年度からスポーツ少年団指導者に関わる制度が改定されますので、説明会の時間を取ってもらい説明しました。自分自身の勉強不足で、皆様に理解していただけたか非常に心配です。改定では、今までの登録区分や名称が変わり、四年間に一回研修会に参加することになるなど複雑になりました。これは、子どもたちにスポーツを教えるのではなく、指導者自身も日々勉強してより良い指導をすることや、子どもたちに対する指導者としての責任を果たすための改定だと思えます。最後に、今後少子化などでさらに大変なと思います、指導者の皆様の益々のご活躍を期待します。



山形県スポーツ少年団 リーダー会紹介

スポーツ少年団活動は小学生の間だけの活動と思われがちですが、実は小学校を卒業しても活動を続けることができます。その仕組みを知らなかった部活動が忙しくて積極的に団活動に参加できないといった理由で、中学生以上の団員が少ないというのが現状です。しかし、スポーツ少年団活動は、それぞれのスポーツの技術を伸ばすということだけが目的ではなく、スポーツを通して様々な人達と交流しながら、豊かで健康的な心と身体を成長させる場でもあります。スポーツ少年団では、中学生以上の団員をリーダーと呼んでおり、小学校で取り組んできた活動に携わりたい、後輩達にも自分達が受け継いできた技術を伝えていきたい、将来はスポーツに関わる仕事に就きたい、また、指導者等になって生涯を通してスポーツ活動をしていきたいといった理由を持って活動を続けています。

山形県にはこのような様々な目的を持った人達が集って構成された、「山形県スポーツ少年団リーダー会」という組織があります。山形県内で団員登録をしている高校生から二十二歳までの人なら誰でも参加することができます。



また、現在は二十三歳以上になり社会人となってもアドバイザーとして活動に協力してくれている人たちもいます。リーダーという存在にあまりなじみのない人が多いと思いますが、リーダーは指導者とは区別されており、指導者と団員を繋ぐ役割を担っています。小学生の団員とも年齢が近いため、お兄さん、お姉さんのような存在であり、競技においても身近な目標ともいえます。

リーダー会の主な活動は研修会や研究大会の参加、交流会やリーダースクールの運営補助などがあります。すでにスポーツ少年団大会などのイベントに参加したことがある人や身近にリーダーがいて話を聞いたことがある人は知っているかもしれませんが、大人の指導者だけでなく、リーダーが中心となって活動を企画したり運営したりすることも多いです。レクリエーションなどの企画、会場の準備など、リーダー会のメンバーみんなで責任を持って仕事をするという経験は、普段の生活では感じる事ができない充実感と達成感を得ることができます。

こうしたリーダー達の活動は山形県だけではなく、日本全国の各都道府県に同じような組織があり、自分たちの所属する県のスポーツ少年団活動を盛り上げようとたくさんさんのリーダー達が活動しています。リーダー会に入って活動することで県外のリーダー達とも



交流する機会ができるので、自分達の活動を広め合うだけでなく、そうした活動の経験を自分が所属する各団活動に活かし、より良い団活動につなげていくことができます。

リーダーには認定制度があり、毎年県内で中学生を対象に開催されるジュニア・リーダースクールに参加するとジュニア・リーダーの認定を受け、更に日本全国の高校生と大学生を対象としたシニア・リーダースクールに参加するとシニア・リーダーの認定を受けることができます。この認定を受けると毎年開催されている日独（ドイツ）同時交流の派遣資格を取得でき、団員として国際経験を積むことができます。

最初は不安や心配なことが多いかもしれませんが、自信を持つて大きな一歩を踏み出して、人生のスキルアップを目指し、一緒に活動しませんか。県内にはジュニアとシニア・リーダーの資格を持った団員が少ないため、多くの単位団からリーダーや指導者を目指す中学生、高校生が増えていることを願っています。

活動内容やその他イベントなどについての手続きや疑問点などは、各単位団の指導者、または山形県スポーツ少年団事務局までお問い合わせください。みなさんと一緒に活動できることを、山形県リーダー会のみんなが心から楽しみにしています。



山形県スポーツ少年団
リーダー会会長 野口 大輔

市町村の動き

川西町スポーツ少年団本部事務局

川西町スポーツ少年団は、昭和四十二年三月尾長島に山形県第一〇〇号目として誕生し、昭和四十六年八月には「川西町スポーツ少年団本部」を結成しました。

現在は、十四団三十一名の団員九十九名の指導者で活動しています。

単位団では、多くの指導者が育成母集団と協力をしながら、スポーツ少年団の理念と意義のもと熱意をもって指導にあたっています。また、競技への取り組みだけでなく、地域での奉仕活動や町内外の団員間交流活動などとおして、青少年の心身健全育成を図るべく積極的な活動を展開しています。

町本部としては、合同入団式、全団交流会（運動適性テスト四月・十二月二回）、スポーツごみ拾い大会、小学五・六年生対象のジュニアリーダー研修会（泊二日）を毎年開催しています。

指導者の育成と資質の向上について重点的に取り組んでおり、町育成会・役員・指導者合同研修会の開催、町体育協会との合同での救急法等の講習会を行うとともに、全指導者が有資格取得を目指しています。

子どもたちを取り巻く環境も著しく変化しており、少子化による団員数の減少、スポーツガイドラインなど、今後の子どもたちの健全育成の環境を整えるためにも、スポーツ少年団活動の在り方について、行政や学校・地域スポーツクラブ・スポーツ関連団体と密接に連携しながら取り組んでいきます。



単位団紹介

大江ミニバスケットボールスポーツ少年団(大江町)

代表指導者 清水 利広

大江ミニバスケットボールスポーツ少年団は男子十四名、女子四名の団員構成です。チームは「バスケットモード」で、チームスポーツを基に「仲間」という生涯で大切な宝物を作ろうと日々活動をしていきます。

数年前に二チームが合併し現チームになりましたが、今年度から大江町唯一のミニバスケットボールチームということで、「大江ミニ」と名称を変更しました。

スポーツ少年団の子もたちを指導する上で大切なことは、「勝つことよりも、試合中に頑張る練習したことが出来るようになること」また「チームの約束事を守ること」だと感じています。目標を達成し、試合で勝てたということは、相手チームより良い練習ができた証拠であり、普段からの準備が大切です。

その点から考えると、子どもたちが家や学校で生活する上で生活態度の切り替えが大切のように、「スポーツ少年団活動でも、バスケットモードというスイッチの切り替えを上手にできるようにしよう」と子どもたちに声掛けをしています。

スポーツ少年団の活動は、学校とは違った団体活動です。スポーツ少年団の活動を通して、子どもたちにやる気のもち方や練習の向かい方、生活のめりは、自主性など、人として大切な資質を育成していきたいと考えています。

指導が子どもたちの日々の生活に良い影響をもたらしていることを信じて指導をしています。

最後に、これから団員と指導者、育成母集団でできる良いチームになるよう活動していきます。



明安スキースポーツ少年団(金山町)

指導者 笹原 大輔

明安スキー

スポーツ少年団は、団員の減少などにより、平成二十八年にこれまであった野球部・ミニバスケットボール部・スキー部の三種目からクロスカントリースキー一種目にしぼり、活動を行っています。

五月の新人団員と団紹介を行う町結団式を皮切りにして本格的に活動に入ります。活動は火曜日と金曜日の週二日、主に明安小学校で行っています。冬場は各スキー大会会場に赴き活動を行います。オフシーズンには各種マラソン大会や陸上大会に積極的に参加し、心身の成長と共に他団体との交流も進めてきました。また、九月には本団最大のイベントである森林交流マラソンを行っています。おかげさまで地域の方々とOBの協力のもと、今年で三十回を迎えることができました。引き続き皆さんのご参加をお待ちしております。

順位や結果も大事ですが、過程を大切に今を駆け抜けていきます。明安の活躍にご期待下さい。

今後とも明安スキースポーツ少年団をよろしく願っています。



白鷹剣道愛真会スポーツ少年団(白鷹町)

指導者 芳賀 透

来年度で創立四十年を迎える本団は、前代表の「放課後に児童が活動できる場所を提供したい」という思いから設立されました。

現在は、少子化に伴い、町にあった剣道スポーツ少年団の全てを統合し活動を行っています。

今年度は小学一年生から六年生まで、計二十二名の団員を迎え、地元剣友会の先生方や高校生の先輩方の協力も得ながら、各種大会での上位入賞を目指し、日々の稽古に励んでいるところです。

その甲斐もあり山形県少年少女スポーツ交流大会では、少年の部ブロック二位、少女の部ブロック三位という成績を残すことができました。

また、競技だけではなく、育成母集団の協力のもと、芋煮会やクリスマス会等のイベントも定期的に開催し、団員間での触れ合いも大切にしながら活動も行ってまいります。

来年度は、現在の活動に加え、県スポーツ少年大会をはじめとした、他競技の団員と交流ができるような場所にも積極的に参加し、子どもたちの健やかな心と身体の成長を手助けできるような環境を提供していきたいと考えています。

剣道が楽しい！人との関わりが楽しい！と思ってもらえるよう、団員・指導者共に、これからも頑張っていきます。



三川SC Jr サッカースポーツ少年団(三川町)

指導者 渡邊 邦彦

三川SC Jr サッカースポーツ少年団は、横山・東郷・押切の町内三地区の各スポーツ少年団が合併し、平成十五年より活動しています。

昭和四十八年、横山サッカースポーツ少年団の発足から始まり、今年で四十六年目です。一年生から六年生までの計四十七人の児童が所属しており、週四回程度練習をしています。

当初は、三年生以上が入団の対象となっていたため一・二年生はなかなかサッカーをする機会がなかったのですが、十四年前からキッズスクールとして週一回程度の活動も行っています。

一・二年生のキッズ世代は、サッカーを通してボールと一緒に体を動かす楽しさを、三・四年生世代では、サッカーの基本技術の習得と共に、あいさつや行動のルール、道具を大切に扱う事などを繰り返し指導しています。五・六年生世代は、チームワークの形成で各大会に挑み、お互いの特長を引き出し最後まで諦めずやり切る力と気持ちの育成を心掛けています。子どもたちの積極性が、毎年の好成绩の土台となっているようです。

チームのスローガンは「チーム一丸 完全燃焼！」子どもたちは勿論、監督コーチ、お父さん、お母さんも一緒に夢を追いかけています。



団員の夢

「文武両道をめざして」



寒小スラッガーズ
スポーツ少年団(寒河江市)
渡辺 大泰

ぼくが野球を始めたきっかけは、高校野球を見て自分もあのような選手になりたいと思ったからです。

入団したばかりのときは、まったく体力がついていかず、嫌になっていくばかりでした。しかし、四年生のときのティールボールの大会がきっかけで、自分の野球へ対する見方が変わりました。もともと上手になりたいと思った自分は、父とバツティング練習をしたりノックを打ってもらい守備の練習をしたりして、たくさん努力をしました。そして、六年生になりチームの副キャプテンになりました。ぼくは、キャプテンを支えたり、キャプテンと一緒にチームをまとめたりと色々大変でしたが、その中で、特に「仲間とコミュニケーションをとることの大切さ」と「細かいことでも真面目に取り組むことの大切さ」を学びました。これらの学びを通して、仲間を信頼しなければ強いチームにはなれないことを感じ、また、野球が上手でも細かいことができなければ良い選手にはなれないと分かりました。

ぼくの夢は甲子園に出ることです。大舞台で野球をし、もつと野球を知りたいです。その後は、東京六大学で野球をして、野球というスポーツを通して、たくさんのお話を学びたいです。これからも文武両道を目指してがんばります。

「僕の夢」



丹野道場
スポーツ少年団(新庄市)
富樫 光紀

僕が柔道を始めたきっかけは、兄が柔道をしていました。そこで見た柔道がとてもおもしろそうで魅力的に感じ、小学三年生の時に正式に始めました。

始めたばかりの頃は、たいへん厳しい日々でした。体格が小さかった僕は自分より数倍大きい子に投げられ、泣いてばかりの毎日でした。

しかし、五年生になると練習の中でしっかりと自分の技や攻めの形が出来上がってきました。そして、だんだん試合でも勝てるようになり、柔道がもつと魅力的で楽しくなりました。

そして、中学生となった僕には夢・目標ができました。それは、柔道で中学校の全国大会に出場することです。

小学生の頃は、そのような夢は少しも考えませんでした。なぜなら自分には絶対手が届かないと思っていたからです。地区大会すら勝てなかったのです。ましてや県大会など勝てる気は全くしていませんでした。

しかし、中学生になって全国大会に手が届くぐらいになり、今は自分でも勝つ自信は十分にあります。来年の大会で優勝して全国大会に出場し、最高の思い出を作りたいと思います。そして、高校生や大人になっても、スポーツ少年団で頑張り、鍛えてきた心と身体を活かして充実したものにしていきたいと思います。

「兄にあこがれて」



赤湯サッカー
スポーツ少年団(南陽市)
大友 敬介

ぼくの兄は赤湯サッカーでサッカーをした後、中学・高校とフットボールで活躍していました。その姿を見て、「兄のようにになりたい」と思うようになり、小学一年生の時、ぼくも赤湯サッカーに入団しサッカーをはじめました。

入団したばかりの頃、人数が足りなくてキーパーとして出場した大会で、僕はルールをまだ覚えておらず、味方からのバックパスを蹴らなければならぬのに、手で受けてしまい、相手に点数を与えてしまうという、くやしい思いをしました。それから六年間、スボ少を続けることでルールを覚えることはもちろん、仲間とゲームを組み立てられるようにもなりました。

また、六年生となった今年度はキャプテンとなり、チームをまとめる難しさを痛感しました。そんな時、監督やコーチから適切なアドバイスをもらったり、チームメイトから支えてもらったりすることで、何とかキャプテンをつとめることができました。赤湯サッカーでの貴重な経験を通して、多くのことを学び成長することができました。

来年度は中学生になるので、大好きなサッカーを続け、支えてくれる周りの人に感謝をしながら、県大会に出場できるように、練習に励んでいきたいと思っています。

「卓球から学んだこと」



鳥海卓球
スポーツ少年団(酒田市)
佐藤 快音

僕が初めて卓球のラケットを握ったのは年長の時でした。きっかけは、姉が先に卓球をしていて、練習に時々いっしょに参加して楽しかったからです。

一年生の秋の大会で初めて優勝し、そこから本格的に卓球に打ち込みました。練習はとても厳しく大変でしたが、全国大会に出場するためにたくさん練習をしました。その結果、六年間で三回全国大会に出場することができました。最後の全国大会で二勝できたこともうれしかったです。

また、卓球をする中で色々なことを学びました。それは、あきらめない心、仲間との絆、挑戦する心です。色々な試合で、負けそうになり心が折れそうになった時に、最後まで集中して試合をした結果、逆転して勝った試合がありました。その時はとてもうれしかったです。また、大会を通してたくさんの友達ができました。地区は違いますが、大会で会うたびに話をし、情報交換をしています。試合ではライバルですが、良い友達です。

最後に、卓球をさせてくれて大会の送迎をいつもしてくれる親に感謝したいです。中学校にいくとも卓球を続け、今以上に練習をし、結果を出せるように頑張りたいです。

「全国スポーツ少年大会に参加して」

Bon, クラークスポーツ少年団 (寒河江市)

光位 湊



私は、今回初めて全国スポーツ少年大会に参加しました。私自身、今まで一人で遠くの場所まで行ったことがなかったので、とても緊張しました。でも、移動をする中で「どんな場所なのだろう」「どんなことをするのだろうか」という気持ちが出てきて、わくわくどきどきする気持ちに変わっていきました。

会場である長崎県に着きました。山形県から長崎県の移動は、とても長い道のりでした。一日目は、宿に着いてから、アイスブレイクをしました。他県の人と交流できるか心配でしたが、班のメンバーと少しずつ心を打ち解けられるようになり、安心しました。二日目から三日目は、平和学習と世界遺産見学、海洋体験、文化活動をしました。どの活動も濃密で、学びを深めることができました。その中で特に印象に残った内容は平和学習です。東北地方では東日本大震災によって、多くの方が亡くなりました。この学習を通して、多くの方が亡くなった悲しい気持ちには、今も昔も変わらないことを感じました。世の中には、尊い命や物が数えきれないほど、たくさんあります。文化、伝統、平和。今回学んだこの三つは、私達の未来に大きく期待されていることです。全国スポーツ少年大会を通して、私自身がこれからどう生きるかを考えるべきだと強く思いました。

「全国スポーツ少年大会に参加して」

青葉剣道スポーツ少年団 (川西町)

金子 翔磨

私は、初めて全国スポーツ少年大会に参加しました。今年度は、九州の長崎県での開催です。

大会では、多くの仲間とふれあい、歴史を学び充実した四日間となりました。前年度まで参加した、東北スポーツ少年大会よりも多くの団員が参加していました。

一班あたりの人数も多く、初対面のためとても緊張しました。しかし、最終日には、みんなと仲良くなることができました。

長崎県は、歴史の学習でもよく登場する県です。古い建造物も興味深かったです。一番印象に残っているのは、原爆資料館です。教科書では、理解できないことがわかりました。勉強になり、とても大切なことを学べたと思っています。

今回の大会では、日ごろの生活では体験できないことができました。

この学んだことを、スポーツ少年団の活動にいかしていきたいです。

とても充実した大会参加となりました。



「東北ブロックスポーツ少年大会に参加して」

藤島スポーツ少年団 (鶴岡市)

秋庭 優那

私は、今年度初めて東北ブロックスポーツ少年大会に参加しました。

初めのオリエンテーションではゲームなどをしましたが、なかなか自分から話しかけることができませんでした。野外活動などを通してたくさんの人と話し、距離を縮めることができました。それは、相手側が話しかけてきてくれたからだと思います。「相手側が話しかけてきてくれた。よし、自分も話しかけてみよう」という気持ちになりました。緊張や不安は消え、とても楽しいと思うようになりました。そして、その気持ちは楽しいだけでなく、「もつとずっと東北ブロックスポーツ少年大会が続いたらいいのに」という気持ちに変わっていました。



この大会を通してたくさんのお話を学びました。また、普段の生活ではできないような体験をたくさんすることができました。関係者の方々への感謝の気持ちとこの体験を忘れずに生活していきたいと思っています。

「日独スポーツ少年団同時交流受入」

東根市スポーツ少年団

本部長 奥山 保雄

第四十六回日独スポーツ少年団同時交流受入事業が、七月二十五日から二十九日にかけて、北村山地区の東根市村山市、尾花沢市、大石田町で実施されました。

一日目は、東根市役所で表敬訪問をし、その後、東根温泉「民謡の宿あづまや」で歓迎会が行われました。二日目は、東根市で「書道」と「弓道」の体験、また村山市で「座禅」や「居合道」の体験をして、日本の伝統文化に触れました。ドイツ団員にとつて、とても貴重な体験になりました。三日目は、大石田町ですいかの選果場を視察した後、すいかを収穫。また、尾花沢市では、「カヌー・ヨット」の体験後、徳良湖温泉「花笠の湯」に入浴し、疲れた身体を癒しました。四日目は、各ホームステイ家庭から楽しいプログラムを考えていただき、夕方から東根市の「東の杜」で、「さよならパーティー」を行いました。東根市の元木教育長さんをはじめ、北村山地区各市町の関係者からたくさん参加していただき、盛大に開催することができました。そして、最終日の歓送式では、宮城県からのバスが来るまで、涙を流しながら別れを惜しみました。

最後にプログラム準備から運営まで綿密な計画で支えていただいた東根市をはじめ、北村山地区各市町のスポーツ少年団関係者の皆さん、各ホームステイ家庭の皆さん、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰
 (市区町村表彰)
 大蔵村スポーツ少年団
 (表彰指導者)
 安野重幸(尾花沢市)、村松寛司(金山町)、中川広幸(高島町)、上野薫(鶴岡市)
 ○山形県スポーツ少年団表彰受賞者
 (優良団)
 東小スポーツ少年団野球部(山形市)、村山アスレチッククラブ(村山市)、新庄ビクトリーパワーズ(新庄市)、青葉剣道(川西町)、白鷹町柔道(白鷹町)、藤島バレーボール(鶴岡市)、余目野球(庄内町)、三川町空手道(三川町)
 (功労者)
 橋本修一(中山町)、後藤弘明、横山卓司(寒河江市)、堀幸雄(朝日町)、土田ゆかり(鮭川村)、森和也(川西町)、今野美由紀(長井市)、平賀振一郎(鶴岡市)、田桑秀(庄内町)、佐藤茂(三川町)
 各級スポーツ少年団資格取得者
 ○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 六コース開催
 (受講者) 四六八名(内一〇一名認定)
 ○認定員(日本スポーツ協会公認指導者資格資格保有者) 十名認定
 ○認定育成員 二名認定
 各種事業
 ○県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクール
 八月九日〜八月十一日 山形県海浜自然の家(遊佐町)
 (参加者) スポーツ少年大会四十三名、ジュニア・リーダースクール十九名

指導者等二十四名、リーダー四名
 ○県指導者・育成母集団研修会
 十一月九日 東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市)
 (参加者) 二二九名
 ○日独同時交流【受入】
 七月二十五日〜七月二十九日 北村山地区
 (ドイツ団) 指導者一名、団員八名
 (ホストファミリー) 阿部咲希、寒河江美雪、古谷利明、工藤寛顕、高杉理香、小山陽平、松田友子、大江祐介(東根市)
 ○シニア・リーダースクール
 八月八日〜八月十二日 静岡県
 (団員) 布施順之助、菊地浩太郎、石川颯大(寒河江市)、菅原滯(鶴岡市)
 ○全国リーダー連絡会
 六月十五日〜六月十六日 東京都
 (指導者) 本間歩(鶴岡市)
 (リーダー) 古川かほる(中山町)
 ○全国スポーツ少年大会
 八月一日〜八月四日 長崎県
 (指導者) 佐藤久樹(鶴岡市)
 (団員) 光位湊(寒河江市)、金子翔磨(川西町)、今野速斗、工藤誠、加藤奨、菅井寿真、加藤青弥(鶴岡市)
 ○東北ブロックスポーツ少年大会
 八月二日〜八月四日 宮城県
 (指導者) 小林美和(鶴岡市)
 (団員) 菅原光音、加藤はる、成澤真凛、秋庭優那、佐藤千夜、成田純彩、齋藤帆南、齋藤栞、石井愛美、阿部夢葉(鶴岡市)
 ○全国スポーツ少年団競技別交流大会
 (剣道) (第四十二回)
 三月二十七日〜三月二十九日 長野県
 (参加団) 琢成剣道、宮野浦剣道(酒田市)
 (バレーボール) (第十七回)
 三月二十七日〜三月三十日 岐阜県
 (参加団) わかたけJVCバレーボール(山形市)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会
 【軟式野球】 六月二十九日 宮城県
 (参加団) 舟形(舟形町)
 【サッカー】
 七月十三日〜七月十五日 福島県
 (参加団) 鶴岡Jr・FC(鶴岡市)、FC中山(中山町)
 【柔道】
 十一月三十日〜十二月一日 福島県
 (参加団) 高橋道場(山形市)、戸沢道場柔友会(戸沢村)、沖郷柔道(南陽市)、高島町柔道(高島町)
 【ミニバスケットボール】
 三月七日〜三月八日 岩手県
 (参加団) 桜田ミニバスケットボール、わかたけミニバスケットボール(山形市)、大山女子ミニバスケットボール、羽黒LBWING、Sミニバスケットボール(鶴岡市)、富士見、八幡男子ミニバスケットボール(酒田市)

●編集後記●

例年になく積雪が少なくスキー等のウィンタースポーツ活動もままならないシーズンになりそうです。そして今年には東京オリ・パラが開催され、世界のアスリート達が集う大会です。そして世界中の人達と国際交流を行う良い機会でもスポーツを見て、関わり、やってみる機会もなっています。今回の特集記事は、来年度より指導者制度及び登録規程が変わりますので、「大切なお知らせ」として掲載しました。多少の混乱等あると思いますが、スムーズに登録業務ができればと思います。そして、寄稿していただいた方々に感謝申し上げます。今後のスポーツ少年団活動に生かしていただければ幸いです。

編集委員

- 委員長 井上 道雄
 副委員長 平賀振一郎
 委員 佐竹 英規、奥山 保雄、須藤 信一
 沼沢 弘明、近 雅博、菅野 邦彰
 工藤 海蔵、廣川 由香、那須 陽生
 大江 秀樹

スポーツ安全保険

文化活動も
加入出来ます

対象となる事故 団体活動中の事故 / 往復中の事故
 保険期間 令和2年4月1日の午前0時から令和3年3月31日午後12時まで



公益財団法人 スポーツ安全協会 山形県支部 〒990-2412 山形市松山2-11-30
 (公財) 山形県スポーツ協会内
 TEL 023-642-8321 電話受付時間 午前9時〜午後5時(土、日、祝日を除く。)

スポーツ安全保険 検索

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

https://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

インターネットからも加入受付
を行っております。詳しくは、
ホームページをご覧ください。